

2013年度 ハンド・イン・ハンド募金活動報告

岩手県ユニセフ協会

岩手県ユニセフ協会(滝沢市土沢)は、12月1日、花巻市4ヶ所・盛岡1ヶ所、12月14日、盛岡市6ヶ所の合計11会場で実施しました。中学生・高校生・大学生・一般ボランティアなど396名(子ども参加362名)に参加いただきました。今回お寄せいただいたユニセフ募金は **49万8,488円** でした。ユニセフ募金にご協力いただいた方々、施設を提供して下さった方々、ボランティア参加の皆さんに感謝申し上げます。

世界では、年間310万人の子どもが貧困による栄養不良がもとで命を落とし、1億6,500万人もの乳幼児期の栄養が足りず健全な成長を阻まれています。栄養不良の弊害は、命の危機ばかりか知能や発達の遅れにも及び、その後の子どもの人生を脅かし続けます。**今年度の日本ユニセフ協会の募金活動テーマ: 栄養不良に苦しむ小さな命を守ろう。」**

～参加したボランティアのみなさんの声から～抜粋紹介

- ・活動前に紙芝居でユニセフについて、集まったお金がどのように使われるかなどの説明があったので、募金の趣旨をよく理解して呼びかけをすることができた。お店の迷惑にならないように呼びかけの声をおさえての活動だったが、たくさんの方々が募金をしてくれて嬉しかった。(盛岡白百合学園高校生)
- ・今回はじめて募金活動に参加しました。活動できて本当に良かったと思います。また、機会があったならぜひやりたいと思います。街ゆく人たちが結構募金してくれてありがたいです。実際やつてみると私も募金しようという気持ちになりました。(盛岡北高校生)
- ・私はユニセフのことをあまり知らなかったが、ハンド・イン・ハンド募金活動でユニセフのことをよく知ることができました。これからも募金をしていきたい。(盛岡市立河南中学生)
- ・中学校の時も参加したので、やり方はすぐに分かった。募金をしてくれる人たちがお礼を言ってくれたのがうれしかった。栄養不良の世界の子どもたちのために活動できてよかった。(盛岡市立高校生)
- ・今日は本当に貴重な体験をさせていただきました。参加するのははじめてでしたが、この活動を通し、自分も世界の貧しい子どもたちに何かできないかと考えることができました。また、募金をしてくれるたくさんの通行人を見て、人の温かさを感じることができました。自分自身も少し変わったかなと思います。本当にありがとうございました。(盛岡中央高校生)
- ・小学校の時にユニセフについて習って以来、ユニセフとかかわることはありませんでした。私が知らない所で東日本大震災の支援をしてくださっていたと聞いた時、驚きと感謝の気持ちになりました。今回の募金のテーマは、「栄養不良に苦しむ小さな命を守ろう」でした。3人グループで声をそろえて呼びかけました。親切にお金を入れてくれる人がいるととてもやりがいを感じられました。また、私たちは普通に食べ物をたくさん食べられるが、このようなことは普通のことではないことを改めて感じました。今回は、募金を呼びかける方でしたが、する方にも積極的にやっていきたいです。(盛岡白百合学園高校生)



▲MOSSビル前の募金の様子



▲盛岡中央高校のボランティアの皆さん



▲盛岡大学生協学生委員会の皆さん



▲ホットライン着町での募金の様子



▲イオンモール盛岡南で募金を呼びかける皆さんとユニセフ旗



▲クロステラス盛岡にて



▲カワトク前での募金の様子